



## Index

### トピック ... P2

最近、流通 BMS 導入の取引先説明会を開催したイオン、マツモトキヨシ、コメリの各 IT 部門責任者にその狙いなどについてお聞きしました。

### 協議会の活動紹介 ... P7

部会の開催状況、フォーラム&ソリューション EXPO の開催計画などを紹介しています。

### シリーズ 業界のキーマンに聞く ... P10

日本アパレル・ファッション産業協会 情報システム委員会の尾内委員長に業界の最新動向や情報化についてお聞きしました。

### キーワード解説 ... P13

本協議会で今年の3月に基本方針を出した「流通 BMS と Web-EDI」について解説しています。

### 流通 BMS 協議会会員 ... P14

### 流通 BMS 導入(予定)企業 ... P16

### ロゴマーク使用許諾製品 ... P16

### 流通 EDI 入門講座/流通 BMS 講座 ... P17

### 入門講座 (バーコード、電子タグ) ... P18

### 編集後記 ... P19

## GMS、DgS、HCの大手が流通BMS本格導入で揃い踏み —イオン、マツモトキヨシ、コメリのIT責任者に聞く—

基本形メッセージのVer.1.3が2009年10月にリリースされてから2年、GMS、食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターといった基本形メッセージを利用する小売業態の大手が、本格導入に向けた表明を相次いで行っています。

そこで、最近、取引先説明会を開催したイオングループ、マツモトキヨシホールディングス、コメリのIT部門責任者にその狙いなどについてインタビューしました。

### イオングループ 2012年末までの導入を要請

#### ◇インタビューした人

イオンアイビス(株) システム開発本部 本部長 北澤 清氏

#### ◇取引先説明会の開催状況

7/19～11/1に幕張本社、大阪、名古屋、札幌、仙台、広島、福岡  
沖縄で合計28回開催中



イオングループは早くから流通BMSに取り組んで来られましたが、今回の説明会では2012年末までという期限を切った形での切替えを要請されています。その背景について教えてください。

**北澤** 一番大きな背景としては5月に開催された、製・配・販連携フォーラムでイオングループとして10社が流通BMS導入宣言を行ったことです。流通BMSがイオン固有のオンラインシステムではなく、業界統一のオンラインシステムになるということを考えた時に、集中して短期間で移行することのメリットは大きいからです。

もう一つは社内的要因として、JCA手順による従来の取引先オンラインのシステムを安定運用させるということがだんだん難しくなっています。通信モデムといったハードの手配や、システムを維持管理する人的リソースの確保などです。このままですと、事業継続上のリスクが増大します。万が一、イオンの取引先オンラインに障害が発生

すると、お客様やお取引先様にも甚大な影響を与えてしまいます。

また、イオンでは基幹系のシステムを移行しているのですが、取引先オンラインの一部が旧来の大型汎用機に残っており、廃止できないという事情もありました。しかし、今年度、明確に旧来の大型汎用機を廃止するという方針を決定しました。それに合わせ、取引先オンラインも流通BMSに移行し、旧来の大型汎用機からの脱却に取り組んでいます。そういった意味で機が熟したと考えています。

—今回はイオングループ全体の小売と、その全ての取引先が対象という、非常に大がかりなのですが、スムーズな移行をしてもらうために留意されていることを教えてください。

**北澤** 一番に留意しているところは、お取引先様のご理解とご協力が不可欠ですので、そこに注意を払っています。これまでも流通BMS導入に



向けての説明会は何回も開催していますが、改めて7月から11月初めにかけて、全国8か所ですべて28回/13日の説明会を実施する予定です。事前に説明会を実施し、お取引先様にも十分な移行期間の中で、取り組んで頂けるよう注意しています。

また、今までの取引先説明会はイオンだけで実施していましたが、今回は流通システム開発センターからもご説明頂くことにより、今回の取り組みがイオンだけのことではなくサプライチェーン全体で取り組む仕組みだということをご理解いただけるようにしています。

次に、導入に向けた組織・体制作りと、役割を明確にしています。どうしてもIT部門だけが実施するということになると、なかなかうまく進みません。そこで、導入の責任者は商品担当の執行役が担当し、具体的な導入に向けた実運営は、グループのITを担当するイオンアイビスが担当します。お取引先様への説明会のご案内についても、IT部門からではなく、普段お付き合いのある全国の商品部門からご連絡させていただきました。当然、案内をする商品部門のメンバーにも流通BMSを理解してもらう必要がありますので、7月から8月にかけて、グループ企業含めてテレビ会議で数十回の説明を実施し、理解してもらいました。

導入体制の面では、イオンの流通BMSは全てを自社で運営しているわけではなく、複数のベンダー様にご協力頂き実施しています。よって、それぞれのベンダー様にも、スムーズに切り替え、移行するための体制作りをお願いしました。特に食品のお取引先様は、地場のお取引先様も多いので、ASP3社を通じて、VAN to VANという形でそれぞれの地元のVAN業者とも連携できるよう、それぞれのASP会社に体制作りをお願いしています。

あと、お願い事項になるのですが、移行となるとどうしても期限の最終ぎりぎりに集中しがちに

なります。そうなりますと、お取引先様に十分なサポート、フォローができませんので、事前にお取引先様の導入計画を把握したうえで、無理のない計画を立てる予定です。また、導入が決まった後の本番までのテストがあります。これをいかに短期間で実現するかということについて、簡易のテストデータ等を事前に用意し、手順を定めて、お取引先様も短時間、短期間でテストができるということを考えておく必要があります。幸い、短い期間で流通BMSへ移行をしたという実績もありますので、手順などを流用して効率よくテストを実施していきます。

一切替えが完了した以降の効果として期待されていることをいくつか教えてください。

**北澤** JCA 手順を廃止し、事業継続上のリスクがなくなるということが非常に大きいです。また、旧来の大型汎用機をなくすることができるというのも、ITコストの低減につながります。ただ、そういったもの以上に、流通BMSを導入することによって、今まで電話回線を利用したJCA手順では実現できなかった日本語特有の漢字ですとか、あるいは将来的に画像情報ですとか、新しいデータサービスが使用可能になります。それをうまく使うことによって、流通BMSは新しいビジネスモデルの構築や業務改革にとって不可欠なグループインフラとして拡大していくと思います。ネットワークの技術進歩が速く、回線速度も上がり、コストも下がっています。これまでなかなか実現できなかったことを実現できるようになってきています。それを有効に使うためにも、ネットワークインフラにはきちんと対応しておく必要があると考えています。

## マツモトキヨシホールディングス 取引先の半数が対応可能または予定

### ◇インタビューした人

(株)マツモトキヨシホールディングス

執行役員 情報システム部長 奥嶋 莊一郎氏 (写真左)

情報システム部 MD システム課 課長 中川原 充氏 (写真右)



### ◇取引先説明会の開催状況

9/6 に松戸の本社で開催

—御社は来年4月からの新基幹システム稼働に合わせて、7月から流通 BMS を導入されることを表明されました。今回の流通 BMS 導入は、新基幹（新 MD）システム構築の一環ということですが、新 MD システムの狙いと、その中で EDI を従来型から流通 BMS に切り替えられる背景について教えてください。

**奥嶋** 弊社は今まで独自で専用のシステムを作っていました。2007年にホールディングスとなったこともあり、システムの変更が必要となりました。そこで、コストを削減し、安く、かつ、最新のテクノロジーで技術力を享受したいと考えました。サプライチェーンマネジメントの観点から、今までは商談するのにいちいち弊社に来社いただいて商談するという方法でしたが、新 MD システムでは、システム上で商談を行えます。

また、物流としてはタイムリーに物流センターの在庫を把握できるようにし、ビジネスを見える化したいという狙いの一つです。生産性を向上させる上でも ASN を利用できることは大きいです。その一環として、流通 BMS は非常に効率の良い業界標準です。コストの面では、今の物流・流通はコストが高いです。流通 BMS は将来的に考えても良い仕組みです。導入しておけば今後は楽だと思っています。今まではいちいち構築していましたが、今後はプラグインすれば使えるという感じになるのですから。

—今回の説明会の対象は貴社取扱い商品のどの部分に当たりますか。また、その対象取引先数は何社ですか。

さらに、事前アンケートを取られたようですが、流通 BMS についてはどのような結果でしたか。

**中川原** 対象部門は調剤を除く全てです。全体では 150 社ぐらいです。流通 BMS の導入に関するアンケートの結果は、約半分が対応可能または予定であり、検討中を入れると約 80% になります。

**奥嶋** GMS やスーパーが先行しているので、食品や日雑の卸はほとんどがすでに流通 BMS を取り入れています。弊社がやらなければと思っているのは医薬卸だと思っています。

—御社の流通 BMS 導入によって、チェーンドラッグストア業界の導入が促進されることを期待しています。他のドラッグストアに対して何かメッセージがありましたらお願いします。

**中川原** 弊社がやることで、ドラッグ業界の普及に貢献できればと思っています。

**奥嶋** これを機に ASP サービスを充実させて、小さなドラッグさんも入ってほしいと思っています。

## コメリグループ 環境が整い、正式に移行を表明

### ◇インタビューした人

コメリグループ ㈱ビット・エイ 取締役 統括部長 小林 禎氏

### ◇取引先説明会の開催状況

8/10 に新潟本社、8/18,19 に東京事業本部で開催



「コメリさんは経済産業省事業の共同実証に参加されるなど、早くから流通 BMS に取り組んで来られましたが、今回の説明会で改めて本格導入を表明されました。その背景や狙いについてお聞かせください。

**小林** もともと、流通 BMS が出る前から、お取引先様から各小売別にシステムを構築することに対して何とかしてほしいとの要望がありました。当然、各小売のためにシステムを作るとその作ったコストは全部原価に乗かってしまう。イコールそれは社会的コストとなるわけです。そういった状況の中で、ちょうど共同実証の話があり、標準化すればお取引先様も、我々も、将来に向かって進んでいけると思いました。これによりお取引先様のコストが下がるということは、我々のコストも下げられるし、それは最終的にお客様に対してもコストを下げて良いサービスができるということになります。

そこから始まり、共同実証に参加して早くから流通 BMS に取り組んではいましたが、現状としては、取引先様の準備もありますし、取引の一つの手法として流通 BMS もできるというレベルで、導入済みのお取引先様は数社と少ない状況でした。そんな状況ではありましたが、自社でパッケージを開発し、今期に入ってから、スーパーが中心ですが、いろいろな動きも出てきました。製・配・販連携協議会で導入宣言を出したこと、大手スーパーが流通 BMS の導入に踏み切ったこと、また、

それによりお取引先様からも問い合わせがあったことなどの背景もあり、説明会を行い、正式に流通 BMS への移行を表明しました。

「今回の対象はコメリのお取引先のどの範囲を想定したのですか？ 仮にすべてとなると、業種や地域、規模など多様な取引先企業に対応してもらうための工夫も必要かと思いますが、取引先にスムーズに導入していただくためのポイントをいくつかお聞かせください。

**小林** 通年で取引のある全てのお取引先様を対象としています。システムとして一番のターゲットとしているのは JCA 手順を使用しているお取引先様です。それ以外にも、WEB や独自 EDI など色々ありますが、導入し、動き始めれば、将来追加で投資する必要はなくなるわけですから、それら全てを流通 BMS に集約する予定です。

ただし、対象となるお取引先様には、大手のお取引先様のようにシステムが分かる人がいないところが大半です。そこで、できるだけ簡単に導入できるようにし、どうしてもという場合はエンジニアが行きますが、基本的にはお取引先様自身で導入ができるように工夫をしました。また、コストの面でも、月額利用という料金体系を選択肢の一つとして追加で用意し、最初にかかる費用を抑えることもできるよう工夫しました。この料金体系はとっても好評です。規模がさほど大きくないお取引先様も、今まで FAX だけで取引されてい

たお取引先様も、この料金体系であれば導入する  
とおっしゃるところも多いです。

—今年の10月に流通BMSに切替えスタートと  
いうことですが、完了目標はいつ頃とお考えでし  
ょうか。また、切替えが完了した以降の効果とし  
て期待されていることをいくつか教えてください。

**小林** 完了目標というのは設定してないですが、  
2012年3月末を一つの目途としています。効果  
としては、ペーパーレスだとか、新たに取引を開  
始するときにもコストがかからずにできるだとか、

いろいろと非常に大きな効果が出ると期待してい  
ます。

また、インターネットを利用する流通BMSだか  
らこそ、今回のシステムでは流通BMSでの受発  
注だけでなく、データ提供サービスや見積もり関  
連の仕組み、バイヤーとの情報BOXなどの付加  
サービスをつけ、商談の前段階が全てシステムで  
できるような仕組みを合わせて提供します。本社  
が新潟にあるだけに、より効果は大きく発揮され  
ると考えています。

(以上、聞き手：坂本尚登、まとめ：梶田瞳)



コメリグループ説明会 新潟会場



コメリグループ説明会 新潟会場



コメリグループ説明会 東京会場



## 日用品・化粧品・一般医薬品の運用ガイド作成等を承認 第1回商品マスタデータ部会を開催

平成23年度第1回商品マスタデータ部会を、8月3日（水）13時～15時に（財）流通システム開発センターで開催しました。今年度の部会は、下記13団体からの委員で構成されています。

最初に部会長の選任が行われ、昨年度に引き続き、日本歯磨工業会推薦の小林洋氏（サンスター(株) 営業企画部担当部長）が満場一致で選出されました。

続いて、協議会の昨年度の活動と今年度の事業計画の概要について、総会資料に基づいて事務局から説明の後、具体的に以下のテーマについて検討を行いました。

### ① 日用品・化粧品・一般医薬品運用ガイドラインの策定について

昨年度までのアパレル分野に引き続き、今年度は日用品・化粧品・一般医薬品分野における運用ガイドライン策定に向けて、関係業界の委員によるWGを設けて具体的に検討を進めることが承認されました。

### ② 商品画像について

本テーマは、第1回運営委員会（6月14日）において、商品マスタメッセージの画像情報の扱いに関して再確認が必要との提案を受け、新たに加えられたものです。事務局からの経緯説明の後、進め方について議論が行われ、まず提案業界に具体的な要望を取りまとめて頂いた上で、協議会として必要な検討を進めていくことが確認されました。

### 平成23年度商品マスタデータ部会 委員推薦団体（50音順）

（社）新日本スーパーマーケット協会
全国菓子卸商業組合連合会
全国化粧品日用品卸連合会
（社）全国中央市場水産卸協会
一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会
（社）日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会
（社）日本衛生材料工業連合会
（社）日本加工食品卸協会
日本化粧品工業連合会
日本チェーンストア協会
日本チェーンドラッグストア協会
日本歯磨工業会
日本百貨店協会



## 流通 BMS 導入実態調査の内容・方法を検討 第2回普及推進部会を開催

今年度の第2回普及推進部会を8月5日(金) 15時~17時に(財)流通システム開発センターで開催しました。

会議では主に「流通 BMS 導入実態調査」の調査内容、調査対象について検討しました。本調査は2009年度に続く2回目で、普及推進活動への活用と「導入企業名公開リスト」への追加掲載を主な目的としています。

例えば、この2年間に JCA 手順の利用状況はどう変化したか、流通 BMS の導入済/予定の割合はどれくらい増えたか、導入企業の流通 BMS 接続取引先数はどれくらい増えたか、などを分析します。

また、2年前には調査しなかった内容、例えば、導入済企業の流通 BMS 取引先の割合(社

数、データ件数)や使用メッセージ種、導入の理由などを調査します。

さらに、流通 BMS のロゴマークや「Web-EDI 基本方針」など、2年前には存在しなかった事柄についてその認知度を調べます。

調査は、【小売調査票】と【卸・メーカー調査票】の2種で行っています。小売調査票は下表の正会員7団体に依頼し、それぞれの会員小売業約800社に、卸・メーカー調査票は正会員16団体の会員卸・メーカー約1,100社に配付しています。

調査結果は10月末までに集計し、11月初旬開催の第3回普及推進部会と第2回運営委員会で検討した上で、11/16の流通 BMS フォーラム&ソリューションEXPOを皮切りに広報や検討に使用していく予定です。

### 「2011年度 流通 BMS 導入実態調査」実施概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入実態と課題を把握と普及推進活動への活用</li> <li>「導入企業名公開リスト」への追加(導入済/予定企業に了解を得て)</li> </ul>
調査内容	EDIで使用している通信手順、導入済企業の導入形態、使用通信手順とメッセージ種、使用取引先の割合(社数、データ件数)、導入理由、導入効果など。導入予定企業の予定時期。導入計画がない企業の理由 など
協力団体(正会員)	<p>【小売調査票】</p> <p>日本チェーンストア協会、日本スーパーマーケット協会、(社)新日本スーパーマーケット協会、オール日本スーパーマーケット協会、日本百貨店協会、日本チェーンドラッグストア協会、(社)日本DIY協会(ホムセンター)</p> <p>【卸・メーカー調査票】</p> <p>(社)日本加工食品卸協会、日本ハム・ソーセージ工業協同組合、全国菓子卸商業組合連合会、全日本菓子協会、全国化粧品日用品卸連合会、日本石鹸洗剤工業会、日本化粧品工業連合会、(社)日本DIY協会、協同組合 ハウネット、(社)日本衛生材料工業連合会、(社)日本医薬品卸業連合会・大衆薬卸協議会、日本OTC医薬品協会、全日本履物団体協議会、一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、スポーツ用品情報システム研究会、(財)家電製品協会</p>

(注) スポーツ用品情報システム研究会(S研)は、正会員である(社)日本スポーツ用品工業協会の要請に基づいて調査を依頼した。





## 「流通BMSフォーラム&ソリューションEXPO 2011」開催 11月16日(水)、TOC有明で

秋の恒例行事となった、本協議会主催の「流通BMSフォーラム&ソリューションEXPO」を11月16日(水)10時~17時に東京・江東区のTOC有明コンベンションホールで開催します。

3回目となった本年度は、流通BMSの本格的な普及の流れを確実なものにするため“拡げる流通BMS”という総合テーマを掲げ、流通を担う製・配・販のエンドユーザー企業及び全国のITベンダーの関係者に対し“流通BMS協議会の認知度の向上”と“流通BMS導入のさらなる促進”を図ることを目的として開催します。

以下、今年の概要を紹介します。

### ●フォーラム

フォーラムは以下のプログラム構成を予定しています。

[流通BMS協議会の活動報告]

流通BMS協議会概要/流通BMSの特徴などの流通BMS基本情報の周知と、現時点における流通BMSの普及状況及び各業界動向の紹介

[ユーザー企業等による導入事例紹介]

高島屋、コメリ、イオンの各グループの流通BMS導入状況と今後の拡大計画について、各社のIT部門責任者に講演していただきます。

また、流通BMSの利用分野拡大の可能性として、金融機関を含めた金流と商流の連携について、日本銀行の決済システム部門の方に講演いただ

く予定です。

### ●ソリューションEXPO

ソリューションEXPOには、協議会支援会員22社が出展し、各社の流通BMS関連製品・サービスを展示します。

展示内容は大きく、①流通BMS対応製品(ソフトウェアパッケージ製品、通信機器、ほか)、②流通BMS対応サービス(ASPサービス、認証サービス、ほか)、③流通BMSに関連する周辺ソリューション(販売業務パッケージ、ほか)となっています。

展示会場は、昨年度と同様、フォーラム会場と同一フロアとし、フォーラムの各講演間の休憩時間(25分程度)にも容易に来場可能としています。また、開場時間も流通BMSフォーラムより長く設定しており、フォーラムの前後にゆっくりと来場できるようにしています。

### ●申込み方法

本イベントは、事前参加登録制としております。今年も約500名の参加を見込んでおり、フォーラムの各セッションは完全入れ替えの定員制となっているため、定員になり次第締切となります。10月初旬に、流通BMS協議会会員から各団体加盟企業に案内状配布を行うとともに、流通BMS協議会ホームページでも10月初旬以降、参加受付を予定しています。

### ソリューションEXPO 出展企業一覧

No	会社名	No	会社名
1	セイコープレジジョン株式会社	11	株式会社データ・アプリケーション
2	株式会社インターコム	12	日本電気株式会社
3	JBアドバンス・テクノロジー株式会社	13	株式会社サイバーリンクス
4	日本ペリサイン株式会社	14	株式会社ビット・エイ
5	富士通エフ・アイ・ピー株式会社	15	株式会社インテック
6	富士通株式会社/株式会社富士通中部システムズ	16	エヌアイシー・インフォトレード株式会社
7	ユーザックシステム株式会社	17	株式会社寺岡システム
8	株式会社リテイルサイエンス	18	株式会社HBA
9	株式会社日立製作所/株式会社日立情報システムズ	19	株式会社エス・エフ・アイ/株式会社リテイルコム
10	ウルシステムズ株式会社	20	デジタルトランスコミュニケーションズ株式会社

### 第3回 アパレル業界

## 流通BMSが流通業界全体で進んでいると肌で感じている

一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会

情報システム委員会委員長

(株式会社ワコール 執行役員 情報システム部 部長)

### 尾内 啓 男 氏

おうち

あきお



株式会社ワコールは2007年度、アパレル業界の代表としてスーパー業界との流通BMS共同実証に参加し、2008年5月に流通BMSを導入しました。その後百貨店とも共同実証を経て実稼働。流通BMSにおけるアパレル業界のトップランナーです。

今回お話をおうかがいした尾内氏は、日本ボディファッション協会の情報物流委員会の委員長も務めています。

—アパレル業界における最近の話題や動向を教えてください。震災や円高・株安の影響はいかがでしょうか？

**尾内** 多くの企業が日本アパレル・ファッション産業協会を通じて衣類の寄付を行いました。ワコールも日本ボディファッション協会を通じて肌着を送りました。今回の震災は範囲が広がったので、20万枚ほどを寄付しました。震災後、業界としては、不透明な状況が続くと見ていましたが、7月は百貨店の業績が好調だったこともあり、予想より良くなっています。4月～6月期も悪くない状況でした。生産の多くが海外にシフトしていることもあり、サプライチェーンへの影響は自動車業界等のほかの業界に比べ大きくはないようです。

復興需要がありますので商品が足りなくなった、という話も聞きます。パジャマやショーツなど複数点購入なされるお客様も多いです。

また、節電の影響で暑い夏をどう乗り切るかがひとつテーマとなっており、アウターならUVカット素材のもの、肌着なら冷感素材の商品やステテコ（男女とも）が多く発売されました。

最近の円高・株安は気になるところです。リーマンショックの直後、大きく業界全体で業績が下がりましたが、昨年あたりから少しずついい目が出てきた感じがしています。震災による一時的な落ち込みはありますが先ほど申し上げたように業界として伸びています。そういった中、最も気にかかるのは消費者のマインドです。

当協会会員の主な取引先は百貨店です。中長期的には価格は少々高めでも価値ある商品を求める購買層が百貨店に戻ってきたところですので、円高・株安による影響で購買行動が変化してしまう懸念があります。マインドが上向いてきたところなのに、再度落ち込むと、回復するまでにまた2～3年かかってしまうことも考えられます。



— 御協会の情報システム化の取り組みを教えてください。

**尾内** 委員長になって4年になります。消費税率のアップなど、システムの改変が必要となる出来事があると日本アパレル・ファッション産業協会でも、日本ボディファッション協会でも頻繁に会合を開き検討しますが、ここ数年は活動のほとんどが流通BMS関連です。

委員会は基本的に月1回行います。現在は、9月に一斉本番となる高島屋さんの対応の準備を進めています。

流通BMSの立ち上げの頃には、標準業務プロセスフローの取り決めや、メッセージの項目の検討、共同実証など課題が多岐に渡っており、委員が手分けして経済産業省事業の部会に参加し、委員会で結果を報告するなど非常に活発でした。現在は、普及の時期ですが、当業界だけでなくちょっとスピードが遅いという印象です。

特に百貨店はスーパーと異なり、JCA手順の限界やモデムの生産中止といった差し迫った課題としては捉えておられないようです。システムの老朽化による切り替えや業務改革にIT投資が絡む、といったことがない限り流通BMSへの切り替えはなかなか進みそうにありません。

— 御社の流通BMS導入状況はいかがですか？

**尾内** 流通BMSは取引先数社との間で導入しましたが、今はまだ、大きな効果を上げるところまでできていません。ワコールが取引しているスーパーの数は膨大です。そのうち9割以上の取引先と既にEDIもしくはEOSを行っていますので、半数くらいが流通BMSに切り替われば大きな成果が出てくると思います。

大手スーパーは流通BMSを導入し始めていますので、データ量という観点からは、かなり流通BMSに移行しました。しかし、個別プロ

グラムは数多く残っています。一方、もし複数の取引先から打診があったとしても、順番に一つずつしか切り替えできないというのが難しいところでは。そういう意味では時間はかかりませんが、着実に進めていきたいと考えています。また、2社目以降、導入にかかる時間はとても短くなりました。もう5年近く流通BMSに関わってきていますので、小売業から導入のお話があれば、当協会としてもワコールとしても準備ができています。

Web-EDIは1~2年前に比べて減っている印象です。スーパーもWeb-EDIと流通BMSの両方を提供していますので、Web-EDIの問題は以前ほど意識しないようになりました。

— 流通BMS協議会へのご要望がありましたらお願いします。

**尾内** スポーツ用品小売業への働きかけをお願いしたいです。ワコールだけでなく、当協会の会員はスポーツウエアも非常に多く製造していますし、売上も上がっています。

現在は大手スポーツ用品チェーン店とはEDIとはいえ完全に個別対応で、手間がかかっています。チェーンドラッグストアやホームセンターへも流通BMSが広がっていることを考えると、協議会には今後スポーツ用品チェーンへの展開も視野に入れていただきたいです。扱う商品の種類も点数もドラッグストアやホームセンターに比較すると少ないです。スポーツ用品関係の団体としては流通システム開発センターのS研(スポーツ用品情報システム研究会)がありますが、小売業の団体がいないのかもしれない。

スポーツ用品チェーンが流通BMSを導入すると、百貨店・スーパーに続く3本目の柱となって、大きく効率化を図ることができます。



これまでの JEDICOS や CII 標準と違い、流通 BMS がアパレル・ファッションだけでなく、流通業界全体で進んでいると肌で感じています。この動きが中断することは 100%ないでしょう。

(聞き手：島崎綾子)

(用語解説)

**JEDICOS** : Japan EDI for Commerce Systems の略。通商産業省（現・経済産業省）の「流通業界における電子化取引標準化調査研究」事業の研究成果として、国際標準の可変長 EDI メッセージ (UN/EDIFACT) とその流通業界向けサブセット (EANCOM) をもとに開発を

行った日本の流通業向けサブセットのこと。第 1 版は 1996 年度に開発された。

(出典：EDI の知識)

**CII 標準** : Center for the Informatization of Industry の略。日本情報処理開発協会(JIPDEC) の産業情報化推進センター(CII)が、1992 年に国内の EDI に関する標準化を推進するために開発した規約。EDI に必要な規約の中で、CII 標準は情報表現規約として国内の業界横断的な標準シタックス・ルールなどを規定している。繊維業界では、94 年度から 96 年度にかけて通商産業省が実施した QR 基盤整備事業の中で、CII 標準に基づく EDI 標準メッセージ (TIRA) が開発された。

(出典：PC Online ウェブサイト)

関連した動き

### 2011 アパレルソリューションフェアで流通 BMS 説明

日本アパレル・ファッション産業協会とともにアパレル業界から正会員として本協議会に参加していただいております全日本婦人子供服工業組合連合会主催の「2011 アパレルソリューションフェア」が、8月23、24日の2日間、東京・江東区の TOC 有明で開催され、協議会事務局からセミナーの冒頭 20 分ほど、流通 BMS の説明を行いました。

このイベントは、アパレル関係のソリューション展示とセミナーで構成され、ソリューション展示では、本協議会支援会員の富士通(株)、富士通エフ・アイ・ピー(株)、(株)NEC情報システムズ各社が、流通 BMS 関連の製品・サービスを展示・説明していました。

セミナーでは、流通 BMS に関する基調講演として、24日の13時から、(株)高島屋 IT 推進室副室長の山中氏より、流通 BMS の取組みとその効果に関する講演がありました。

山中氏からは、昨年度に“百貨店版 V2.1”で追加した「在庫・需要状況報告メッセージ」を使い、中元・歳暮時期のギフト商品の受注情報（配送時期などを含む）を取引先と共有し、商品の配送や手配の効率化を行っていることや、既に導入を開始しているアパレルメーカーとは、一段と接続取引先の拡大が進み、また全ての商材への拡大展開を行っている状況の報告がありました。

なお、協議会事務局からは、

- ・流通 BMS の導入企業公開状況
- ・協議会における普及活動内容
  - ※講座開催、流通 BMS 標準準拠のロゴなど
- ・流通 BMS における Web-EDI の取り扱い
- ・経済産業省のバックアップによる「製・配・販連携協議会」の活動状況
  - (大手 49 社による“流通 BMS 導入宣言”など)
- ・最近の取引先説明会開催状況

など、導入拡大が一段と速まっていることを説明しました。



## 流通 BMS と Web-EDI

### ◆新たな“多端末現象”に◆

流通 BMS の基本形メッセージの最新版である Ver.1.3 がリリースされて2年、流通 BMS は着実に普及を見せている一方で、独自仕様の Web-EDI を要請する小売業が後を絶ちません。

従来型 EDI の代表である JCA 手順の様々な問題（通信に時間がかかる、モデムの製造中止、漢字や画像が送れない）を解決するのがインターネット EDI ですが、手作業によってデータの授受を行う Web-EDI では、JCA 手順で実現していた「データの自動連携」という EDI 本来の姿からも後退することとなり、取引先側の大きな不評を買う結果となっています。

最近では、データ連携するための通信管理ソフトを無償で提供するケースも増えていますが、無償だけに完成度が低く、実用に耐えないものや、1台のパソコンで複数の管理ソフトを併用使用すると互いに干渉するので、結局は1ソフトに1PC という“多端末現象”となっているケースが見られます。

その一方で、自社でデータの活用手段を持たない、データで送りたくてもデータが作れない、データ連携するほどの定常的な取引がない、といった理由で、特別の投資が要らない Web-EDI

で十分という取引先があるのも事実です。

### ◆流通 BMS における Web-EDI 基本方針◆

このような、小売と卸・メーカー間の EDI 取引の多様なニーズに応えるとともに、単に「コストが安いから」という理由から独自仕様の Web-EDI のみの手段を取引先に要請する小売業をこれ以上増やさないために、流通 BMS 協議会では、下記のような『流通 BMS における Web-EDI の基本方針』を 2011 年 3 月に制定し、HP 上で公開しています。

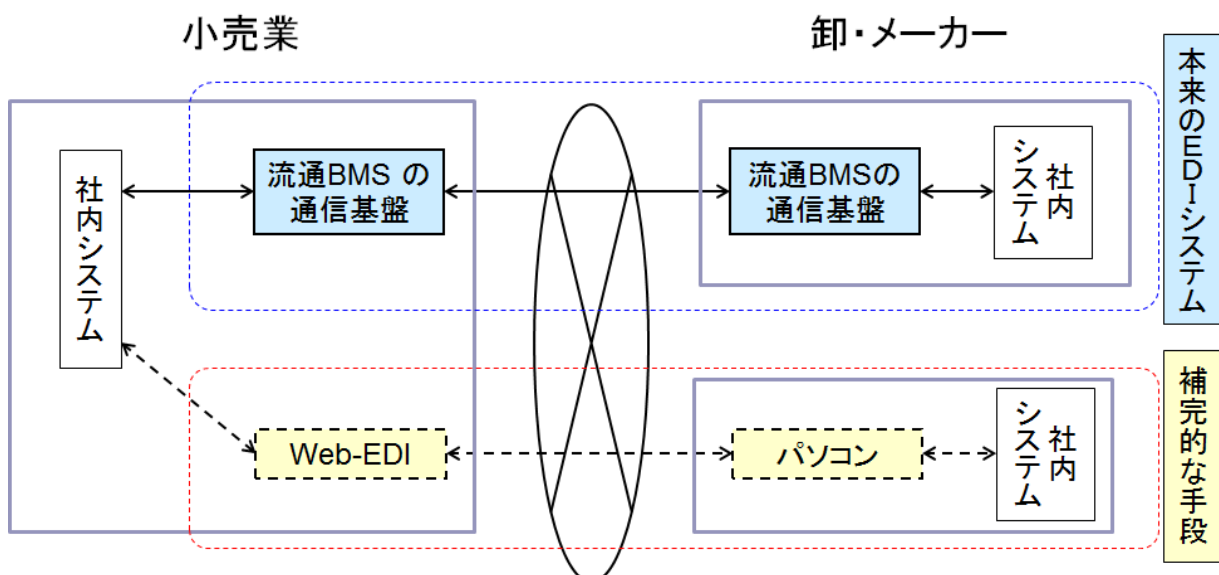
1. Web-EDI の位置付け  
Web-EDI は流通 BMS の補完手段である。
2. Web-EDI の適応要件  
流通 BMS の C-S 手順を同時に提供する。
3. Web-EDI の機能要件  
流通 BMS のメッセージで使用しているデータ項目のみ使用する。

（注）C-S はクライアント-サーバの略

上記は要点のみ示しています。詳細は下記をご参照ください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/standard/standard06.html>

Web-EDI は流通 BMS の補完手段





オール日本スーパーマーケット協会  
 (財)家電製品協会  
 酒類加工食品企業間情報システム研究会 (F研)  
 情報志向型卸売業研究会 (卸研)  
 食肉流通標準化システム協議会  
 (財)食品産業センター  
 (財)食品流通構造改善促進機構  
 (社)新日本スーパーマーケット協会  
 (財)生活用品振興センター  
 全国医薬品小売商業組合連合会  
 全国卸売酒販組合中央会  
 全国菓子卸商業組合連合会  
 全国化粧品日用品卸連合会  
 全国青果卸売協同組合連合会  
 (社)全国中央市場水産卸協会  
 (社)全国中央市場青果卸売協会  
 (社)全日本医薬品登録販売者協会  
 全日本菓子協会  
 全日本履物団体協議会  
 全日本婦人子供服工業組合連合会  
 (社)全日本文具協会  
 (社)大日本水産会  
 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会  
 (社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会

(株)アール  
 (株)アイシーエス  
 (株)アイティフォー  
 (株)ITビジョナリー  
 (株)アイネット  
 (株)アグリコミュニケーションズ  
 アクロスソリューションズ(株)  
 (株)あじよ  
 (株)アスコット  
 (株)アットマーク  
 アトラスシステム(株)  
 (株)アルケミックス  
 イーサポートリンク(株)  
 (株)イーネット  
 eBASE(株)  
 イー・マネージ・コンサルティング協同組合  
 (株)イシダ  
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
 (株)インターコム  
 (株)インタージ  
 (株)インテック  
 (株)インフォマート  
 (株)インフォメーションプロセッシングリサーチ  
 ヴィンキュラム ジャパン(株)  
 ウェブスペース(株)  
 ウルシステムズ(株)  
 (株)エイ・アイ・エス  
 (株)HBA  
 エス・エー・エス(株)  
 (株)エス・エフ・アイ  
 (株)SJC

## 正会員 (2011年9月20日現在、48団体)

(社)日本衛生材料工業連合会  
 日本OTC医薬品協会  
 (社)日本加工食品卸協会  
 (社)日本玩具協会  
 日本化粧品工業連合会  
 日本GCI推進協議会  
 一般社団法人日本出版インフラセンター  
 日本スーパーマーケット協会  
 (社)日本スポーツ用品工業協会  
 日本生活協同組合連合会  
 日本石鹸洗剤工業会  
 (社)日本専門店協会  
 日本チェーンストア協会  
 日本チェーンドラッグストア協会  
 (社)日本ドウ・イット・ユアセルフ協会  
 日本歯磨工業会  
 日本ハム・ソーセージ工業協同組合  
 日本百貨店協会  
 (社)日本フードサービス協会  
 日本文紙事務器卸団体連合会  
 一般社団法人日本ボランティアチェーン協会  
 一般社団法人日本レコード協会  
 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
 協同組合 ハウネット

## 支援会員 (2011年9月20日現在、164社)

(株)S-Parts  
 エス・ビー・システムズ(株)  
 エヌアイシー・インフォトレード(株)  
 NECエンベデッドプロダクツ(株)  
 (株)NEC情報システムズ  
 NECネクサソリューションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)  
 (株)NTTデータNCB  
 (株)NTTデータ スミス  
 大阪市中央卸売市場  
 大阪商工会議所  
 (株)岡山情報処理センター  
 沖縄流通VAN(株)  
 オフィスフナヤマ  
 オリンパスシステムズ(株)  
 カストプラス(株)  
 (株)ガルフネット  
 キヤノンITソリューションズ(株)  
 (株)クライム  
 (株)ケイ・コム  
 けいしんシステムリサーチ(株)  
 K・ビジネスサポート(株)  
 (株)コスモコンピュータシステムズ  
 小林クリエイイト(株)  
 (株)コムアソート  
 (株)サイバーリンクス  
 (株)さくらケーシーエス  
 (株)サトー  
 サンケーバイナリィ(株)  
 (株)サンレックス



(株)CSK  
 (株)シイエスシー  
 GMOグローバルサイン(株)  
 (株)ジェイ・エス・エス  
 (株)JSOL  
 JBアドバンスト・テクノロジー(株)  
 (株)システム・トラスト  
 (株)システムベース  
 (株)シスラボ  
 シャープシステムプロダクト(株)  
 (株)ジャパンインフォレックス  
 SOOP(株)  
 (株)スコープ  
 住商情報システム(株)  
 住友セメントシステム開発(株)  
 セイコープレジション(株)  
 (株)セゾン情報システムズ  
 創玄塾  
 大興電子通信(株)  
 (株)大洋システムテクノロジー  
 (株)タドラー  
 T I S(株)  
 (株)D T S  
 (株)T K C  
 (株)データ・アプリケーション  
 テクトランシステム  
 (株)テクノプレーン  
 (株)デジタルコンセプト  
 (株)デジタルデザイン  
 デジタルトランスコミュニケーションズ(株)  
 鉄道情報システム(株)  
 (株)寺岡システム  
 (株)寺岡精工  
 東芝情報機器(株)  
 東芝テック(株)  
 トップラン・フォームズ(株)  
 (株)トライ  
 (株)トレンズ  
 西日本オフィスメーション(株)  
 日経メディアマーケティング(株)  
 (株)ニッセイコム  
 日本アイ・ビー・エム(株)  
 日本アドバンストリーダーズソフトウェア(株)  
 日本経済新聞社  
 日本事務器(株)  
 日本情報通信(株)  
 日本電気(株)  
 日本ヒューレット・パッカード(株)  
 日本ベリサイン(株)  
 日本ユニシス(株)  
 日本ラッド(株)  
 (株)ニュートラル  
 (株)ネクステーションコンサルティング  
 (株)野村総合研究所  
 パナソニック システムネットワークス(株)  
 パワー・ワークス(株)  
 (株)日立情報システムズ

(株)日立製作所  
 日立ビジネスソリューション(株)  
 (株)ビック東海  
 (株)ビット・エイ  
 (株)ひむか流通ネットワーク  
 (株)ファーストテクノロジー  
 (株)ファイネット  
 (株)フィンチジャパン  
 (株)福岡CSK  
 福岡流通VAN(株)  
 富士ゼロックス(株)  
 富士ソフト(株)  
 富士通(株)  
 富士通エフ・アイ・ピー(株)  
 (株)富士通システムソリューションズ  
 (株)富士通総研  
 (株)富士通中部システムズ  
 (株)富士通マーケティング  
 フューチャーアーキテクト(株)  
 (株)プラス  
 (株)プラネット  
 (株)フリーポート  
 (株)ハリオス  
 北陸コンピュータ・サービス(株)  
 ホンダロジコム(株)  
 ミツイワ(株)  
 三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)  
 三菱電機インフォメーションシステムズ(株)  
 (株)南日本情報処理センター  
 (株)Minor iソリューションズ  
 (株)ミンクス  
 メルシーネット(株)  
 ユーザックシステム(株)  
 (株)U-Think  
 (株)ユニックス  
 ユニバーサルフード(株)  
 (株)ライドウェーブコンサルティング  
 ライトシステムコンサルタント(株)  
 (株)ラック  
 (株)リウコム  
 (株)リテイルコム  
 (株)リテイルサイエンス  
 (株)リンネット  
 ロジ共働促進(株)  
 (株)ワイ・ディ・シー

※新規支援会員：2社（(株)ビック東海、(株)リウコム）

## 流通 BMS 導入(予定)企業



流通 BMS 協議会では正会員、支援会員の協力を得るなどして、流通 BMS 導入済/予定企業を独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しています。2011 年 9 月 1 日現在の状況は下記のとおりです。

### 小売業

業態	済	予定	小計
スーパー	67	14	81
百貨店	3	6	9
ドラッグストア	2	3	5
ホームセンター	4	0	4
生協事業連合	3	0	3
合計	79	23	102

具体的な企業名は下記サイトをご覧ください。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html)

### 卸売業・メーカー

業種	済	予定	小計
食品・飲料卸	48	0	48
菓子卸	12	5	17
日用品化粧品卸	10	3	13
医薬品卸	4	2	6
アパレル・靴卸・メーカー	11	1	12
食品メーカー	20	2	22
家庭用品卸・メーカー	3	2	5
包材資材卸・メーカー	4	5	9
合計	112	20	132

(注) 上表の企業数は、社名公開企業の数であり、導入企業の数ではありません。

実際に流通 BMS を導入している、または導入を予定している企業数の一部です。

## ロゴマーク使用許諾製品



流通 BMS 協議会では流通 BMS の標準仕様に準拠した製品やサービスに対して、流通 BMS のロゴマークの使用を許諾しております。

2011 年 9 月 20 日現在の状況は下記のとおりです。

許諾総数：67 製品・サービス  
(提供企業数 39 社)

### (67 製品・サービスの内訳)

- EDI (通信+XML) 製品：37
- サービス (ASP/SaaS)：21
- 通信基盤：4
- 認証サービス：3
- 物流ラベル作成ソフト：2

### 検索サービスの提供

上記の製品・サービスの詳細は下記サイトから検索することができます。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html)





流通 EDI 入門講座の今後の開催予定をご紹介します。

## 流通 EDI 入門講座

開催日時	2011 年 10 月 21 日 (金) 13:30~16:30/受付開始：13:00~
会場	(財)流通システム開発センター 2 階 会議室 (東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ 2F)
内容	流通業界の特徴と流通 EDI の歴史と現状、流通 BMS の概要などを説明します。
対象者	これから流通業のシステムを担当する皆様 小売業、卸売業、商品メーカー、システムベンダーなど
プログラム	第 1 部：(1)流通業界の特徴 (2)流通業界の取引形態 (3)流通 EDI の歴史と現状 統一伝票、J 手順、データ交換 (EOS/EDI)、流通 VAN、標準コードなど 第 2 部：(1)流通 BMS 策定の背景 (2)流通 BMS の特徴 (3)先進事例の紹介

※参加費は無料です

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

# 流通 BMS 講座



流通 BMS 講座の今後の開催予定をご紹介します。

## 流通 BMS 講座 (導入編)

開催日時	2011 年 11 月 18 日 (金) 13:30~17:00/受付開始：13:00~
会場	(財)流通システム開発センター 2 階 会議室 (東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ 2F)
内容	流通 BMS 導入時の検討項目、業務プロセスモデルとメッセージ項目を説明します。
対象者	流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門、システム部門の皆様、ユーザー企業をサポートする S I 企業やコンサルタント等
プログラム	第 1 部：流通 BMS 導入設計編 (帳票とメッセージの対応) 第 2 部：流通 BMS 導入検討編 (導入検討・導入効果分析)
使用するテキスト	流通 BMS 導入検討と運用設計ガイドライン・流通ビジネスメッセージ標準 (基本編 Ver.1.3) メッセージ項目一覧

※参加費は 3,150 円 (テキスト代) 申し受けます。事前振込制です。

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>



流通システム開発センターが主催している EDI 以外の入門講座をご紹介します。

## バーコード入門講座

第1部 GTIN・JANコード・集合包装用商品コードの基礎	
13:30~15:00	(1) GTIN (Global Trade Item Number) とは (2) JANコード：コード体系、利用方法、申込方法など (3) 集合包装用商品コード：コード体系、利用方法などについて (4) その他関連事項
第2部 GS1-128・GS1 データバー・電子タグ(EPC global)の基礎	
15:10~16:30	(1) GS1-128 コード体系、利用方法、業界動向などについて (2) GS1 データバー：シンボルの種類、利用方法、今後の動向など (3) 電子タグ (EPC global)：電子タグの標準システムである EPC global を中心に概要を紹介

### 開催日・場所

**東京会場：2011年10月13日(木)、10月26日(水)**

(財)流通システム開発センター2F 会議室

東京都港区赤坂 7-3-37 プラースカナダ 2F TEL：03-5414-8515

**大阪会場：2011年10月19日(水)**

大阪商工会議所 4階または5階会議室

大阪市中央区本町橋 2-8 TEL：06-6944-6268

**沖縄会場：2011年10月7日(金)**

浦添商工会議所 3F 研修室

沖縄県浦添市勢理客 4-13-1 TEL：098-877-4606

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

[www.dsri.jp/semsal/seminar/barcode.htm](http://www.dsri.jp/semsal/seminar/barcode.htm)

## 電子タグ入門講座

### プログラム

- |   |
|---|
| (1) 電子タグとは<br>(2) 電子タグの活用シーンと導入事例<br>(3) EPCglobal 標準の紹介<br>(4) 電子タグシステムの導入に向けて |
|---|

### 開催日時・場所

**2011年11月9日(水) 14:00~17:00**

(財)流通システム開発センター2F 会議室

東京都港区赤坂 7-3-37 プラースカナダ 2F

TEL：03-5414-8515

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

[www.dsri.jp/semsal/seminar/epc\\_seminar.htm](http://www.dsri.jp/semsal/seminar/epc_seminar.htm)



◇最近、小売業が開催する流通 BMS 導入の取引先説明会で、従来型 EDI からの移行期限を明示しているケースが出始めたことが特筆されます。移行期限を明示することは、取引先への EDI 手段の強要になりかねない、といった懸念がありましたが、最近は少し雲行きが変わってきたようです。

その背景として第一に挙げられるのが、経済産業省の肝入りで発足した製・配・販連携協議会による「流通 BMS 導入宣言」の発表です。宣言の署名企業でもあるイオングループは、2012 年 12 月末までの移行完了を明記し、それまでに移行できなかった企業は翌月から FAX 発注と手書き請求書にならざるを得ないとしています。

9/27~9/29 の3日間で7回の取引先説明会を開催したヤオコーでも、2012 年 9 月末の移行期限を表明しました。同社も導入宣言の署名企業ですが、それは別としても「取引先にとって期限が明示されなければ対応のための予算化もしにくい」という取引先側の事情に配慮した結果でもあるようです。

◇8頁でも紹介したように現在、流通 BMS 導入実態把握のためのアンケート調査を実施しています。その設問の中に「EDI 通信手順」がありますが、まだまだ JCA 手順が多くの小売業で使用されている一方で、Web-EDI を併用する小売業が増えている傾向が読み取れます。そこで、キーワード解説に「流通 BMS と Web-EDI」を取り上げました。

最近 Web-EDI を導入したドラッグストアの社長と主力取引先卸のシステム担当者の間で以下の

ような会話が交わされたそうです。

小売社長「インターネットさえあれば家でもできるのにどうして出来ないのか。根拠もなくただ単に嫌がっているとしか思えない」

卸担当者「標準から外れています」

小売社長「ネットを通じて取引するから流通 BMS と同じ基準とシステム会社から聞いている。そちらの解釈がおかしいのでは」

卸担当者「手作業でのやりとりはできません」

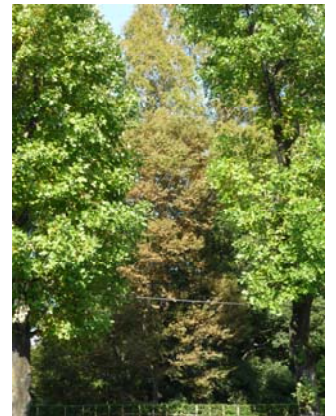
小売社長「手作業かどうかは関係ない。やる気があるかどうかだ」

協議会としても「流通 BMS における Web-EDI 基本方針」を地道に PR して、上記のような誤解を解いていく活動を継続していきたいと考えています。

◇近くの神宮外苑を散策すると、そこここに秋の気配が漂うようになりました。つい 2 週間前には大汗をかきながらゴルフをしたのがまるで嘘のようです。

「外苑の 草木が告げる  
秋の色」

(尚)



発行 : 2011 年 9 月 30 日  
 発行人 : 流通システム標準普及推進協議会  
 (流通 BMS 協議会)  
 住所 : 〒107-0052  
 東京都港区赤坂 7-3-37  
 プラス・カナダ 3 階  
 (財) 流通システム開発センター内  
 Tel : 03-5414-8505  
 Fax : 03-5414-8513  
 E-mail : ryutsu-bms@dsri.jp  
 URL : www.dsri.jp/ryutsu-bms

